

令和2年度第2回学校運営協議会記録（鹿野分校）

日 時 令和2年10月22日（木） 14:00～15:40

場 所 山口県立徳山高等学校鹿野分校 会議室

参加学校運営協議会委員

鹿野分校委員3名全員参加

学校参加者

校長、副校長、事務長

（鹿野分校）教頭、主任主事、学務部長、生徒支援部長、生徒指導主任

会議概要

（1）令和2年度学校評価・授業評価の中間報告について

学校：鹿野分校の学習・進路・生徒指導の取組について説明。

（2）本年度の地域連携の取組について

学校：新型コロナウイルス感染症対応で、地域行事が中止になっているが、10月末に鹿野クリーンアップ作戦も実施され生徒全員参加予定。いろいろな地域の行事に参加していきたい。

（3）取組についての意見交換

委員：鹿野地区の行事は全て延期ではなく中止になった。これまで生徒のみなさんには地域行事に積極的に参加してもらい地元のエネルギーになっていたことを改めて感じている。本日、授業を参観して、一生懸命集中し取り組む姿勢は素晴らしいと感じた。何年か前の経験だが、徳山にバスで出る用事があったためバスに乗った時に、鹿野分校の生徒の1人がバスの車中でALTと会話をしており驚いた。生徒の自信に繋がっていくと感じた。来年度、募集停止ということで、とても残念であるが、今まで、色々と地域に関わり連携してもらった事に感謝している。生徒たちには、鹿野で過ごしたことを財産にして生きて行ってほしい。

委員：授業に関しては、とても和やかな雰囲気であった。スポーツフェスティバルの時感じたことだが、1年生は入学式後からしばらく学校に登校できない日々が続き、積極性に欠けているように感じた。なんとかフォローできる取組はできないであろうか。通常入学してからレクレーションなどでコミュニケーションが取れていたが今年は、その時間がなかったからではないだろうか…。娘から聞いた話だが、1年生は男子1人で、最初暫く仲間に溶け込めてない様子を見てかわいそうだということを知った。

委員：進路指導の件だが、コロナウイルス感染症で、進路指導の説明会が中止になり、来年度、大学のシステムが変わってくるとすることで生徒の理解はどうなのか。また、親が、入試についてよく分からないという話を聞いた。どう説明しているのか。

学校：3年生は4人で、目指しているところも違い、ひとりひとりに合わせて話をしている。進学を希望している3名の生徒は、入試制度が変わっていくという大きな影響はない。親に対しても、個々に話ができている状況。2年生には、これからだと考えている。

学校：進路・就職に関しては、変化がある。数が少ない分、個別に対応できている。鹿野分校は、人数が少ない分、メリット・デメリットがある。これから生徒が少なくなってきたから大きな課題だと考えている。

令和5年の3月をもって鹿野分校が閉校となる。現在、生徒は17名だが、最後は6名で迎えることになる。学校の教育機能をいかに維持していくかが大切だが、それには地域・保護者の力が大切だと考えている。

(4) 学校課題に関する協議 募集停止に伴う対応

学校：生徒が減少する中での「教育活動」（体験活動等）と「閉校に向けた準備・閉校」
「式等についての地元意見」について説明。

〔質疑応答・意見交換〕

委員：生徒会長などが、リーダーシップを取り、色々な行事など引っ張ってきた。今の1
年が2年になった時、下の学年がいない。生徒のモチベーションにも関わってくる
ので心配している。

学校：確かに現在3年生の入学当時は、静かで大人しい雰囲気だったが、最上級生になり
立派になったと感じる。

委員：分校同士の交流に興味をもっている。また、コロナの関係でリモートになっている
が、ネットを通じて交流をしながら繋がりを深めていくのはどうだろうか。さらに
鹿野分校卒業生が地元には多いと思う。卒業生が母校に足が向かうようなことを行
っていくのはどうだろうか。

委員：高校生の人数が減るのであれば、中学生と合同ではどうか。

学校：今まで考えてはなかった。今、小中は連携しているが・・・

委員：県立・市立と壁があるのではないか。

委員：そこは考えてうまくできないか。

学校：過去には中学校との交流があったが、生徒の質が変わってしまった。スポーツ交流
などでは中学生の方が全体をまとめてしまい、高校生が萎縮する場面が多く見られ
るようになった。また、総合的な学習の時間などで地域文化などを学ぶ交流に変え
てみたが、それも辛い状況になり、生徒同士の交流は8年前から止まっている。生
徒一人ひとりの持つ特性や高校生としての自尊心の在り方からすると、なかなか先
ほどのような交流は厳しいのではないかと考えている。

学校：色々な経緯があり難しい面もあるが、このまま終わるのは寂しいので、出来ること
を探していくとこも必要。今、鹿野では、幼保小中で、動いている。もし、そこ
に入ることができるなら、賑やかなところで最後を飾ることもできるのは魅力的。生
徒の成長を見ながら検討をしていきたい。いろいろな行事があって成長のきっかけ
になる。

(5) その他

学校：敬老会の時など、地域の方々から生徒が可愛がってもらい、生徒が足を運ぶのを楽
しみにしていた。そういう機会がなくなってしまったのは、とても残念。逆に、地
域の方から、混ぜていただけることがあれば声をかけていただきたい。イベントな
ど考えられることなどあればご意見いただきたい。

委員：同窓会の活動は、ほとんどない状況。理事会等開いて、今度どういう風に残してい
くのか皆さんの意見をききつつ、決めていきたいと考えている。

委員：在校生には、自分たちの責任・関係で学校が終わってしまうものではなく、環境の
変化だからと伝えてほしい。進学・就職で終わりではなく、将来や人生においてひ
とつのスタートになる。今から、生きていく力をつけて送り出してあげたい。

委員：個人的には、授業参観ができて有意義だった。

委員：学校とは、生き抜く力を学ぶ場だと考える。生徒ひとりひとりが社会でどう生き抜
いていけるか、より良い生活を送れるか、より社会に貢献できるか。人材を育てる
場所。学校は、社会にでて、より良い社会をつくっていく人格を育てる場所であっ
て欲しい。